

Borderless IR Co., Ltd Announces Newsletter

2020年2月21日

株式会社ダイキアクシス(4245 東証1部) 2019年12月期決算概要

「2020年12月期は大幅増益を計画。 再生可能エネルギー関連事業が利益に大きく貢献」

決算概要

○2019年12月期は、2019度から2021年度の中期経営計画「Make FOUNDATION Plan (ESG経営の推進)」を策定し挑戦することとした。まず、最初に、ガバナンス強化と業務遂行の迅速化のため、経営機構改革として監査等委員会への移行と執行役員制度の導入を行った。

主な事業戦略として、将来の収益性の向上に重点を置き、環境機器関連事業セグメントにおいては、海外における事業展開の推進、ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水エスコ事業の営業強化、住宅機器関連事業セグメントにおいては、ECビジネスを開始するなど安定事業から成長事業への転化、再生可能エネルギー関連事業においては、循環型社会の実現と安定収益確保の強化を実施してきた。

○2019年12月連結会計年度の売上高は357億49百万円(前年同期比1.3%減)だったが、全般的な利益改善を進めたことから売上総利益は69億68百万円(前年同期比1.2%増)となった。販管費は、主に人件費を中心に圧縮し、営業利益は10億円(前年同期比8.4%増)、経常利益は11億55百万円(前年同期比4.9%増)となった。特別損益については、特別損失として環境機器関連事業で減損損失等1億88百万円、特別利益として、受取補償金81百万円の計上があった。また、政策保有株式の保有方針見直し等により一時的な投資有価証券売却益4億79百万円の計上があった。結果、税金等調整前当期純利益は10億63百万円(前年同期比29.3%減)となった。税金費用に関しては、レックインダストリーズ株式会社を同社が吸収合併し、レックインダストリーズが保有していた繰越欠損金を同社で利用したことで法人税、住民税及び事業税が減少、また、株式会社シルフィードに対し同社より太陽光発電設備を移管、シルフィードに無議決権の種類株式の第三者割当増資を行い、優先配当として非支配株主に帰属する当期純利益48百万円を計上した。その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は7億82百万円(前年同期比9.1%減)となった。

○環境機器関連事業に関しては、浄化槽排水処理システムは前年同期並みの推移だった。国

内売上高では、大型案件(電気部品工場関連)の受注増額完成、メンテナンス収入があり、海外売上高では、昨年11月に株式を取得したシンガポールにおけるプールメンテナンス会社のCRYSTAL CLEAR CONTRACTOR PTE.LTD.が今期から安定的に売上計上した。

上水事業(エスコを除く)で機器売り6案件の完成があり、前年同期と比べ増加。インド製浄化槽については当第2四半期連結会計期間から販売を開始、ストックビジネスとしての上水事業エスコ収入は、前年同期比増加した。

利益面では、大型案件(電気部品工場関連)における外注工事費の増加があり、当該案件で23百万円の損失となった。それ以外の国内大型案件で、工事部材や外注工事費の増加が見込まれ、工事損失引当金として3億45百万円を計上することとなった。

結果、売上高は185億70百万円(前年同期比0.3%増)、セグメント利益(営業利益)は10億68百万円(前年同期比23.4%減)となった。

○住宅機器関連事業に関しては、建設関連業者売上は、前年同期と比べ中大型案件が少なく、ホームセンターリテール商材は既存店への販売が減少したこと、住機部門工事は前年同期の大型店舗建築工事と同規模の案件がなかったことにより、前年同期比減少となった。結果、売上高は146億42百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント利益(営業利益)は3億66百万円(前年同期比35.5%減)となった。

○再生可能エネルギー関連事業に関しては、太陽光発電に係る売電事業で、順次売電を開始し前年同期より大幅に増加した。バイオディーゼル燃料事業は、前年同期と比べバイオディーゼル燃料の販売が増加。小形風力発電機関連事業については、当第2四半期連結会計期間から小型風力発電に係る売電事業を開始した。売上高は6億99百万円(前年同期比143.3%増)、セグメント利益(営業利益)は2億56百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)65百万円)となった。

○その他の事業に関しては、土木工事業については、前年同期と比べ堅調に推移した。家庭用飲料水事業については、前年同期並みに推移した。売上高は18億37百万円(前年同期比14.0%増)、セグメント利益(営業利益)は1億52百万円(前年同期比56.6%増)となった。

○なお、2019年12月期は、太陽光発電に係る売電事業における発電設備の新規建設を前連結会計年度より行っており、借入、第三者割当増資を実施、固定資産額が27億28百万円増の110億1百万円となった。

○2020年12月期の連結業績見通しについては、売上高394億円(2019年12月期比10.2%増)、経常利益15億円(2019年12月期比29.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9億円(2019年12月期比15.0%増)を見込んでいる。

株式会社ダイキアクシス（4245 東証1部）（ <http://www.daiki-axis.com/index.html> ）

2019年12月期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <http://www.daiki-axis.com/ir/info/index.html>

リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

リリースについての照会先

Borderless IR 株式会社

<http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

T E L 03-4588-6706

担当：福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向け I R 情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外 I R 支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。